

9月23日 人文と「じんぶん」(沖縄の方言で、「生きるための知恵、実生活に生きる知恵」のような意味を指すことば)

今日はいつも朝6時30分ごろから始まる昼食作りが無く、何事かと思った。もしかして昨日ぼくが体調を壊したのを気にして他の家で作ることにしたのか?などと寝ぼけ頭で気を揉んだ。がしかし、なんのことはない、ただ単に今日は研修客がいなかったのだ。センターに行ってそろそろ日本食を作る算段を立てようと話し合い、必要な具材をメモに書いてブンさんに見せた。日本食は明日買い物に行って明日作るようになった。ブンさんからの返事を待つ間、センターで作業をしていたファイ・チャチャイさんから「君たちは何を学びにここに来たのか?」と問われた。すぐに言葉が出てこず、鋭い視線が飛んできた。僕は学びに来たというかバンジャムルンのいいところを見て映しに来たという意味合いが強かったので、**learn** ということばに当てはまる目的が見当たらなかった。もちろんバンジャムルンのいいところを見つける際にいろいろ話を聞いたり、タイ語の話をジェスチャーと単語で想像したりして **learn** するのだが、ぼくにとってそれ自体が目的ではないと思った。なので、「何を学びに来たのか」ということばには答えが詰まった。浅山さんが **agriculture** と答えたところで、ファイ・チャチャイはなにか考えながらどこかへ行ってしまった。

その後ナンプラーの作り方が気になっていたのでブンさんをお願いして、連れて行ってもらった。アートイチャンさんのところでナンプラーは作られるのだが、製作段階なのか放置しているのかわからないが、ナンプラーづくりの途中の壺を見せてもらった。中からは芳醇なナンプラーの香りがして、ブンさんが「いい匂いだ〜」と嗅ぎまくっていた(笑) 僕もナンプラーの香りは好きなのでいい匂いだなあと思いながらクンクンしていた。ナンプラーは今は製造シーズンではないらしく、出来上がったナンプラーが瓶詰されていた。瓶詰されたナンプラーはバンジャムルンブランドの入ったパッケージに入れて販売する。しかし、ナンプラーの生産はありふれており、他のところとも競合するらしい。また、アートイチャンの家には娘さんがいて、名前を **TAWAN** というらしい。僕と同じニックネームだ! **TAWAN** という名前は太陽を指すので意外とポピュラーなのかなあ。

ナンプラー作り見学を終えて戻ると、手持無沙汰になったので、ホームステイ事業者の話を聞きたいとブンさんをお願いした。午前中に二軒回らせてもらった。一軒目は **fern** さんのお家に **garden** の話を聞きに行ったときに一緒にご飯を食べたママさんのお家だった。ママさんの名前はガロオーさん。一か月前からホームステイ受け入れを始めたそう。ご主人が明日からベトナムに家具作りで一か月の出張に行くそう。国境を越えて仕事をするのだからすごい腕なのかなあと思っただけ。二軒目はバナナチップスを作っていたお家で、バナナを作っているのはトムさんといい、今回はおばあちゃんのマヨーンさんに話を聞いた。マヨーンさんは隣の **distric** (日本の「郡」にあたる言葉だろうか?) から嫁いでバンジャムルンに来たそう。現在は娘のトムさんと二人暮らしで、普段はカピをコミュ

ニティセンターで売っている。カピにはマヨォーンさんが作ったことがラベルに貼ってある。マヨォーンさんは4年前にホームステイのメンバーになり事業を始めたそうだ。その理由というのが、「みんながいろんなアクティビティをやっていて楽しそうだったから」というものだった。なるほど。「他の人が楽しそうにやっているのを見てやりたいと思う」というのはごく単純に思えるけど、他人を巻き込む大事な要素だなあと思った。

お昼は、センターの道路を挟んだ向かいにあるレストランでバツミーという黄色の麺のスープを食べた。ぼくはあまり好きじゃなかった。ブンさんはレストランと言っていたが、屋台みたいな「レストラン」だった。「青空食堂」と呼ぶことにする！

その後、午後もホームステイ事業者をブンさんと共に訪れた。三軒目はホームステイを最初に始めたところだった。ホームステイを始めたきっかけは、ビジネスではなく、家をきれいにすることで精神的にも肉体的にも **healthy** になるためだったそうだ。その考えは今でも貫かれているようで、僕らが回った家はどこもきれいに片付いていた。初めは人グループ10人というメンバーだったのが、今ではホームステイ事業者は30軒~40軒、ホームステイ事業のメンバーは100人を超えるという。このお家にはいろんな人が視察に来る。そしてこの家がエアコンも無く細かい仕切りも無いシンプルな作りを見て、これならうちの村でもできる！と言って帰っていくそうだ。バンジャムルンの人々が思いつく考え方には「ブリコラージュ」のような発想が有ると思う。哲学者のレヴィ・ストロースが唱えた発想だったと思うが、「その場に有るもので何かを作り出す知」という使われ方だったと思う。「ブリコラージュ」はフランス語で「日曜大工」の意味だ。その意味が転じて「持ち合わせているもので、現状を切り抜けること」をも意味らしい。そのようにして、今有るもので現実を切り抜ける知恵がバンジャムルンの人々にも方法論として共有されていていっているのかなあと思った。

四軒目はローン・チャイのお家で、話は奥さんのジェーさんに聞いた。ここのホームステイルームはなかなか上等で、エアコンにユニットバス付という設備だった。ジェーさんのお家ではブンさんは長居できず、どこかに行ってしまった。ジェーさんとは少しの英語とタイ語の本でなんとかか会話した。僕は質問を考えながら、ジェーさんのお家にいた犬のラッキーとずっと戯れていた。人懐こいのかまってしまうのだ。ジェーさんはもともとバンジャムルンの出身で、ローン・チャイはスー・トン・プーというタイの詩人の記念公園があるあたりの出身らしい。ホームステイ事業者を周りながら、その人の人生や考え方も一緒に聞けて面白いなあと思った。ついでに、飼い犬は取り入ってしまえば吠えないことに気が付き、味方の飼い犬と未だ敵の飼い犬を区別しなければいかんと思った。未だ敵の飼い犬はひたすら吠えるだけなので嫌だ。ジェーさんは小さいころに犬にかまれて足に古傷が残っていた。バンチョムさんが「犬に気をつけろ！」と言っていたのが生々しく迫った。この50歳~60歳ごろの世代にとって「犬」＝「咬んでくるもの」という認識なのだろう。犬は怖いなあ。

ひとまずセンターに戻り、お菓子を買ってトゥッケーさんのお家に行くことにした。がし

かし、トゥッカーさんは居らず、飼い犬にも吠えられまくり、犬たちを棒で脅しながら咬まれないようにしてその場を後にした。その後お家に帰りご飯を食べた。今日はホームステイ先のお父さんも一緒にご飯を食べて、ランブータンやドリアンやマンゴスチンが日本に有るかの質問をくれたり、東京から沖縄までどれくらいの時間がかかるかなども尋ねてくれたりした。ご飯のあとはコミュニティセンターに行ってメールチェックをした。また、30日にタマサートでチャイワン先生に向けて行う発表などについて話し合った。